

平成28年度
**県南教育事務所重点施策に関する
 調査結果について**

学校教育課通信

平成 29 年 3 月 6 日（月）第 132 号
 編集・発行：県南教育事務所 佐藤 晃

平成 28 年度末の調査結果から、今年度の県南域内の小・中学校の取組について振り返り、成果と課題についてまとめました。各項目の下段に記載しましたので参考にして下さい。（○：成果 ▲：課題）
 自校の調査結果と比較しながらご覧いただき、次年度の学校経営に生かしていただきたいと思います。
 調査への御協力ありがとうございました。

* 3:あてはまる 2:ほぼあてはまる 1:あまりあてはまらない 0:全くあてはまらない

1 豊かなこころの育成				評価平均	
				小学校	中学校
(1)	道徳教育の充実	①	「考え、議論する道徳」をめざし、多様な指導方法、指導体制の工夫改善をしている。	2.31	2.28
		②	「ふくしま道徳教育資料集」を効果的に活用している。	2.33	2.17
(2)	教育相談体制の整備	③	児童生徒のニーズに応じた心のケアのため、保護者やSC、SSW、関係機関との連携を密にした教育相談体制が整っている。	2.82	3.00
		④	前年度の同じ時期と比較し、いじめや不登校が減少している。 *前年度、いじめや不登校が0の場合は、「3」と回答	2.67	2.06
○ 各学校において「考え、議論する道徳」をめざし、多様な指導方法、指導体制の工夫改善が図られてきている。今後、道徳の教科化をきっかけとして、さらに授業改善や道徳資料集の活用に向けた研修の充実を図っていく。					
▲ 県南域内では、昨年度と比較して、小・中学校ともに不登校が増加傾向にある。困っている児童生徒を早期に発見し、教育相談を実施する等、「新たな不登校を出さない」取組を進めていくことが大切である。また、不登校及び不登校傾向の児童生徒には、組織的・計画的で継続的な援助を行っていくことが必要である。					

2 健やかな体の育成				評価平均	
				小学校	中学校
(1)	体力の向上に関する取組の充実	①	体力・運動能力の向上のための学年または児童生徒一人一人に応じた目標を設定している。	2.72	2.44
		②	体力・運動能力の向上のための目標について、児童生徒が自分の記録を確認できる手立てが明確である。	2.72	2.61
(2)	食育の推進	③	ふくしまっ子ごはんコンテストに参加した児童生徒数 ※9月のみ回答	1238 (人)	891(人)
		④	食育の授業を実施した学級の割合(該当学級数 / 全学級数)	92%	74%
(3)	健康教育の推進	⑤	肥満度50%以上の児童生徒数____名 *直近の調査	98(人)	85(人)
		⑥	肥満度50%以上の児童生徒のうち、肥満の改善を目指した個別指導を行っている児童生徒数 ※肥満度50%以上の児童生徒がいる学校のみ回答	53(人)	41(人)
		⑦	全歯(乳歯+永久歯)う歯有病者数____名/う歯処置完了数____名 【小学校】 永久歯う歯有病者数____名/う歯処置完了数____名 【中学校】	75%	72%
○ 各学校において体力・運動能力の向上のために体力推進計画と関連させながら実践が行われてきている。					
○ 各学校において「食に関する指導の全体計画」「給食指導計画」を作成し、学校給食の充実と栄養教諭等と連携した食育について実践が行われている。					
▲ 肥満度 50%以上の児童生徒に対する個別指導や運動・生活習慣に関する指導を実施し、昨年度より改善が見られてきているが、県南の肥満傾向児の出現率は、全国平均を上回っている状況である。今後も、ふくしまっ子体力総合プロジェクトの各事業を活用し、肥満児出現率の低下のために、運動・生活習慣、食に関する指導の継続をしてほしい。					

3 確かな学力の向上				評価平均	
				小学校	中学校
(1)	「確かな学力」の向上を図る継続的な検証改善サイクルの確立	①	学力向上グランドデザインに基づく取組と見直し、改善を行っている。	2.77	2.72
(2)	「確かな学力」の向上を図る授業づくり	②	言語活動を工夫したり、板書計画を生かしたりしながら授業づくりを行っている。	2.72	2.78
		③	学力調査の結果をもとに自校の課題を明確にし、指導の工夫改善に取り組んでいる。	2.82	2.78
		④	定着確認シートを活用し、児童生徒の学力の定着や授業改善に生かしている。	2.85	2.56
		⑤	校内研修を活性化し、自校の研究テーマや基本的指導技術等について共通実践を行っている。	2.90	2.72
(3)	「確かな学力」の向上を支える基盤づくり	⑥	家庭学習や読書の習慣化に向けて、積極的な取組を行っている。	2.90	2.61
<p>○ 検証改善サイクルの確立については、マネジメントワークシートを週案に添付して検証するなど全職員が意識して取り組んでいる学校が増えている。また、各学校において、学力調査の課題分析、定着確認シートの活用、校内研修の活性化に取り組み、学力向上を図る授業づくりに積極的に取り組んできている。</p> <p>▲ 検証改善サイクルの確立について、実践内容が広くなりすぎ、成果や課題が曖昧になってしまう学校が見られる。各学校で取り組む内容を自校の課題と結びつけ、より焦点化、具体化し、いつ・だれが・何を・どのように行うかを明確にした取組が必要である。</p>					

4 特別支援教育の充実				評価平均	
				小学校	中学校
(1)	地域におけるインクルーシブ教育システムの構築と理解啓発の促進	①	「個別の教育支援計画」を作成し、情報の共有や進級・進学時の引継等に活用されている。 ＊作成する対象は、配慮や支援を必要とする児童生徒全てです。	2.74	2.67
		②	障がいのある児童生徒一人一人の実態に応じた交流及び共同学習を実施している。 ＊特別支援学級のある学校のみ回答	2.92	2.86
(2)	幼稚園、小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実	③	配慮や支援を必要とする児童生徒の支援策を検討し、役割を明確にして支援を進めている。	2.82	2.61
		④	特別支援教育に関する校内研修を行っている。	2.54	2.67
○ 「個別の教育支援計画」の作成率も高まり、担任だけでなく関係者により、配慮や支援を必要とする児童生徒の支援策を検討し、役割を明確にして支援を進めている学校が増えてきている。					
▲ 「個別の教育支援計画」の作成と活用に関しては、合理的配慮の提供における本人、保護者との合意形成、支援者間の情報の共有と進級・進学時における引継が確実に Rowe れることが大切である。各学校における「個別の教育支援計画」の作成、評価・改善、引継等の内容を入れた年間計画を作成し、計画的な作成と活用を図ってほしい。					

学校教育を支える基盤				評価平均	
				小学校	中学校
1	教職員の服務・勤務の確立と適正な人事管理	①	新しい人事評価について、全教職員が理解し、運用している。	2.85	2.78
2	学校事故防止の徹底と不祥事の絶無	②	校内服務倫理委員会に、学校評議員や地域住民・保護者等に参加いただき、効果的な取組を進めている。	1.95	1.89
		③	信頼される学校づくりを職場の力で【平成28年改訂版】を活用している。	2.92	2.94
3	開かれた学校づくりと関係機関との連携強化	④	保護者は、学校や学級の経営方針について理解している。	2.72	2.72
		⑤	学校評価の「学校関係者評価」について公表している。	2.79	2.72
		⑥	地教委や関係機関との連携に努めている。	3.00	2.89
○ 地教委や関係機関との連携が図られ、より学校の実態に即した課題の解決に具体的に取り組む学校が増加している。					
▲ 事故の件数は減少しているが、懲戒事案が発生している。また、昨年度同様、服務倫理委員会への第三者の参加についても十分とは言えない。先進的に取り組んでいる学校の事例や人材等を紹介するなどして更なる啓発を図る必要がある。					